

## 第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）  
1月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～経済対策の雇用創出効果の試算や日本経済に生じたさまざまな構造変化について分析しています。

- 2008/12/29 [「政府経済対策による雇用創出効果～実施状況次第で+11.8万人～+41.1万人」](#)
- 2008/12/29 [「労働分配率と企業のグローバル化～業種・規模間で二極化する傾向」](#)
- 2008/12/29 [「構造的失業率の高まりの背景～技能・技術から仕事内容・雇用のミスマッチへ」](#)
- 2008/12/15 [「企業部門における調整圧力の顕在化～雇用・所得環境へのさらなる悪影響が懸念」](#)

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～毎週、市場に起きる新しい動きについてコメントしています。

- 2009/1/13 [「Market Watching Weekly Market Report」](#)（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：鳥峰義清の「マーケットウォッチング」

～財政再建の新しい道筋を示した「中期プログラム」、12月日銀短観についてコメントしています。

- 2008/12/24 [「08・09年度予算案と中期プログラム～歳出拡大は決して大盤振る舞いではない」](#)
- 2008/12/15 [「12月短観は先行き悪化不安を隠せず～大企業の貸出態度、C/P発行環境は悪化」](#)

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～苦境に立つ欧米経済の状況、新たな局面にある中国、アジア新興国の経済情勢を分析します。

- 2009/1/15 [「海外 経済指標・イベント予定 “Weekly Global Economy”」](#)（毎週木曜日配信）
- 2008/12/24 [「アジア経済マンスリー：「政治の季節」が到来しかねないアジア新興国」](#)
- 2008/12/18 [「中国経済マンスリー：「自然体で6%割れ」を前提とした大胆な対策が望まれる」](#)

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

### 編集後記

「百年に一度の経済危機」だから谷は深く、夜明けは遠い。「世界同時不況」で、どの国もどの産業も押し並べて景気が悪い。年の初めから救いようのない話ばかりである。事実、世界景気を浮揚させてきた潤沢なマネーが流れ去った後、実体経済に残された傷跡は日に日に大きくなっているように見える。もともと成長力にかげりの見えていた日本経済は、外需ショックに四苦八苦している。本来、経済立て直しのビジョンが問われる局面だが、景気の悪化に後押しされ政策のリストの空欄を埋めるのがやっとの状況だ。

政策対応を歯がゆく感じる一方、世界経済で「新興大国の成長加速」や「原油 200 ドル時代」が明日にも実現するように語られてから、まだそれほど月日は経っていないことにも考えさせられる。エコノミストなどが経済の先行きを語る場合に、特に心得なければならない点として構造論と循環論の兼ね合いがある。経済の構造変化をいち早く解説することは非常に大切な仕事だが、本号で山口特別顧問の巻頭言に述べられているように、あたかも予言のように数字や結果的中が先走りすれば、断定的な物言いが受け手をミスリードすることもある。一つの事象にとらわれていると実際の経済は次の段階に移ってしまっていることは、これまでもしばしばあった。前例のない激動の最中にあるがゆえに、一步下がって全体を眺めるような現実的な感覚と、経験や既成事実にとらわれない発想をバランスさせることがより大切になっているのではないだろうか。

(H. U)